



記事○「地下鉄施設の保守、維持等に関する研究会」(第7回土木部会)を開催

○ 地下鉄施設の保守、維持等に関する研究会」(第7回土木部会)を開催しました。

去る8月21日(金)の14時から、当協会5階会議室において、地下鉄施設の保守、維持等に関する研究会「第7回土木部会」を開催しました。この土木部会には、札幌市から福岡市までの11地下鉄事業者から土木構造物の保守管理に携わる実務者23名及び(公財)鉄道総合技術研究所の専門家4名が参加しました。

土木部会は、「土木構造物の劣化状況の判定と予防保全手法」を研究テーマとして開



催しているもので、今回の議題は、「構築保全の現状と課題等について」でありました。

最初に東京都交通局から、従来の対処療法的な構築の維持管理を長期的な視点での計画的な補修に転換する目的として進めている浅草線トンネル長寿命化計画について説明がありました。この長寿命化計画では、止水の重要性に鑑み、工事区

間の完全止水を目指していたが、漏水が止まらない箇所や別の箇所に漏水が発生するなどの事象があり、工期と工事費が増加する要因となっていた。このため、試験工事の結果を踏まえ、一度は止水を実施するが、再漏水した箇所では点導水を設置するなどの対策を補完的に行うこととした。

一方、断面修復工では、劣化の程度が軽度で漏水がない箇所については、はつり後に防錆及び中性化対策を行い、埋め戻しは実施しないこととした。

続いて、横浜市交通局から、横浜市ブルーラインの横浜駅から高島町駅間の平沼町シールドトンネルの補修工事の現状と課題について説明がありました。

「平沼町シールドトンネル」は、漏水による塩害が顕著となっていることから、補修は、アスファルト系の止水材料を選定

し、さび落としでは、営業線トンネルへの影響を考慮して、ウォータージェットを使用した第1種ケレンを採用する計画としたこと。



また、防錆塗装工は、試験施工の効果を踏まえてアンダーフィックスの連続繊維シー

ト貼付けとした。この他、軟弱地盤内におけるシールドトンネルの変形状態を調査し、鋼製支保工による補強を行うことについて説明がありました。

次に、神戸市交通局から、西神・山手線及び海岸線の構築保全の現状と課題等について説明があり、2年ごとの通常全般検査では、ラインセンサカメラ、録画装置を用いて、健全度を判定しており、健全度がA及びαと判定された箇所について、より入念な目視検査や打音検査を実施し、必要により補修することで構造物を管理していること。

前回の通常全般検査の結果では、海岸線はA判定の箇所はなく、西神・山手線で20箇所あったA判定箇所については個別検査を実施し、状況に応じて「たたき落とし」、「断面修復」、「クラック注入」等を処置し、今後は、予防的維持管理、老朽化評価の明確化、塩害対策及び大規模地震対策等について検討を進めていく必要があるとしている。



最後に、東京地下鉄から、「iPadを活用した構築維持管理」について報告がありました。従来の通常全般検査では、前回の検査記録を纏めた書類を持参して、検査箇所と比較するとともに変状箇所はデジタルカメラで撮影して、作業終了後に事務所のパソコンに入力していたのを、東京地下鉄(株)では、これらの作業をiPad画面等で全て出来るようにすることで、保守作業の軽減措置を図りました。

このように今回の土木部会では、「構築保全の現状と課題」について、地下鉄事業者からの3件の事例報告をもとに鉄道総合技術研究所の研究員を交えて議論したもので、今後の構築保全に大いに参考になる研究会となった。

【お知らせ】

- ★27.8月号「SUBWAY」(206号)を、協会HPに掲載しました。  
コンテンツ「SUBWAY」からご覧下さい。
- \*「世界の地下鉄」(10月発行予定)の予約を受付けておりますので、ご希望の方は、当協会HP「世界の地下鉄～VISUAL GUIDEBOOK～」から申込下さい。

(注) 必要に応じ、社内へ転送、回覧などをお願いします。

配信先を変更又は追加した方がよい場合は、新しい配信先の職名、氏名及びメールアドレスをお知らせ下さい。

本短信について、ご意見をお寄せ下さい。

連絡先: mukaida@jametro.or.jp